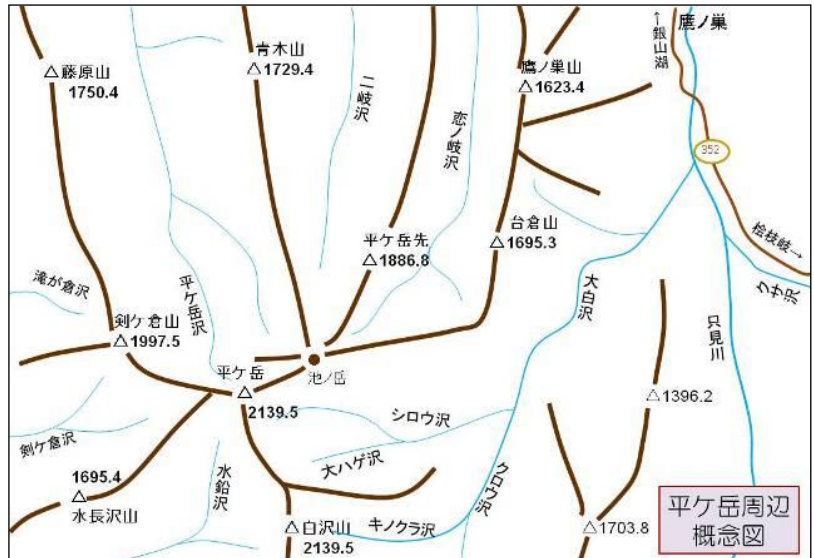


# 踏み跡 <My Mountains>

会津	平ヶ岳と尾瀬散歩	No.181
----	----------	--------

会津・越後の山を歩き始めて何年になるだろうか。地図を赤く塗りつぶす度にさらにその奥にある良さそうな山が見つかる。奥根水源から会津・只見にかけては地図を見ただけで登りたくなる山が目白押しだ。只見川と利根川の分水嶺、群馬・新潟の県境、銀山湖の南岸にそびえ立つ、どうしてもなくだっ広い裾の広がり。行ってみたいけれど、行くにはかなりの勇気が要る山、海拔 2139.5m 平ヶ岳。



この山の存在を知った日からかれこれ 10 年になるだろうか。いつか登ってみたいと思って調べては諦め、調べては諦めを繰り返してきた。車の免許をとり、中古車ではあるが自分の車も手に入れたことで

展開が変わってきた。通常交通機関では入山と下山に膨大な時間を費やしてしまうこの山を、車で入ってピストンする方法でやってみようと考えた。出来上がった計画は、

- 第一日目＝出発・入山・鷹ノ巣の清四郎小屋泊
- 第二日目＝平ヶ岳ピストン・清四郎小屋泊
- 第三日目＝桧枝岐へ移動して会津駒ヶ岳ピストン後湯の花温泉泊
- 第四日目＝湯の花温泉から田代山と帝釈山をピストンして帰京

という豪華なものになった。愈々機が熟し、憧れの平ヶ岳が我が物になる日が近くなってきた。

## 昭和53年9月9日 <自宅→桧枝岐→鷹ノ巣(清四郎小屋)>

朝 6 時 15 分、まだ眠りから醒めぬ娘の頭をポンと叩いて家を出発。真夏の喧騒から解放されたばかりの東北自動車道を北上。今市から国道 121 号線に入り、杉並木・鬼怒川・川治・五十里湖へ。国道 121 号と言うよりも昔通りの「会津西街道」という呼び名の方が歴史の長さや街道の生命力が感じられていい。五十里湖展望台で昼食とやや長めの休憩をとって峠路に入る。

山王峠を越えると福島県(会津)、長い下りを下りきって糸沢で西に折れて国道 352 号に入る。中山峠の南にある中山トンネルを緩やかな傾斜で潜り抜けると、もうそこは会津の深みにはまり始める。

高杖原の高原を抜けて松戸原、内川そして桧枝岐。

桧枝岐は今や民宿・旅館・土産物屋などが並び、僻地ではなくなった。10 年前に初めて足を踏み入れた時の静寂なたたずまいはもう歴史年表に畳みこまれたようだ。桧枝岐でガソリンを補充して、燧ヶ岳と大杉岳の鞍部にある御池を越えると只見川源流の谷あい緩やかに下り、14 時 45 分鷹ノ巣の清四郎小屋に到着。

ここまでの走行距離は 335.9Km、家を出てから 8 時間半。

「いよいよ平ヶ岳の懐まで来たぞ！」という声が体から吹き出してくる。

小屋に入って一息ついた後、明日のアタックに備えて荷物の整理としばしの休息。

ひと休みした後で河原へ釣りに出てみた。水面を見つめること小一時間、見事な 20cm ほどの岩魚が続けて二尾。何と快調な出足かと感嘆の声を上げながら記念撮影。

というのは真っ赤な嘘で、全く収穫はなし。

小屋に戻って入浴し、夕食。夕食に立派な岩魚がでたので、これにて満足とする。今宵の泊り客は 5 名、内訳は釣り客 3 名に登山客 2 名といかにも奥只見の山小屋らしい。

わくわくした気分ですぐに寝るのは久しぶりだ。

## 昭和53年9月10日 <鷹ノ巣(清四郎小屋)→平ヶ岳→鷹ノ巣(清四郎小屋)>

起床 3 時、隣室の物音で目が覚めた。窓から外を見ると快晴で星は満天。

## 踏み跡 <My Mountains>

朝食としてニギリメシを一個食べて3時55分に出発。ヘッドランプを点けて林道歩き15分で登山口に到着。さらに20分ほどの林道歩きで尾根への取り付け点に着いた。4時30分、さあいよいよ長い登りが始まる。標高差600m、左手に燧ヶ岳を感じながら二本松尾根をひたすら登り続ける。

下台倉山6時05分、小梅ちゃんを舐めながら小休止。燧ヶ岳の裾野の広がり美しい。

台倉山三角点(1695.3m)7時。時間経過としてはほぼ順調、体調も良好で気分は爽快。

三角点からちょっと進んだところに第一の水場と呼ばれるポイントがある。海拔1700m地点と思われる。

7時15分に到着。幕営していた人に聞いたら、残雪も消えた時期なので水場へは数分の藪こぎが必要とのこと。5分の小休止のみで通過。

起伏の少ない道が続き第二の水場に到着、9時40分。鷹ノ巣清水とも呼ばれ恋ノ岐沢の水源になる場所。ここもまたこの季節だと渇水。この辺り残雪がたっぷりある6月か7月ぐらいに歩いたら、水が豊富でさぞ楽しい尾根歩きになることと思う。30分の中休止をとり軽い食事。クロワッサンに蜂蜜をつけて二個。ここから池ノ岳への急な登りが始まる。呼吸を整えながら見渡すと燧ヶ岳、景鶴山、大白沢山、平ヶ岳と続く国境稜線が良く見える。

池ノ岳9時40分、海拔2080mぐら이다ろうか、池塘の向こうに平ヶ岳の広がり。もう手に取ることができるような近さになった。一時間の休息をとって昼食。ニギリメシ、オールレーズン、ホットミルク。池塘の水があまりにもきれいなので、小屋で汲んできた水と入れ替えた。池塘の水面を覗き込むと小さな生き物が動いているのが見えた。

平ヶ岳山頂方面は、もうカメラのファインダーには収まらない広がりになっており、肉眼で楽しむしかない。(上の写真)頭上に雲を乗せた燧ヶ岳が裾野を引いて美しい。(下の写真)傍らの草むらにザックをデポして、空身で頂上を往復することにした。

平ヶ岳(2139.5m)11時10分、三角点と頂上を示す地味な標識があるだけの極めてシンプルな頂上で、いかにも想像した平ヶ岳のイメージどおり。「平ヶ岳」という表示よりも「鷹ノ巣へ4時間」の標識の方が大きく威張っているのが面白い。(中央の写真)

池塘はもう渇水状態、しかも(憧れの山に辿り着いたのに)ガスで他の山は何も見えず。「頂上のしるし」を撮影して5分の休憩だけで下山。

池ノ岳11時45分。ガスと霧雨で何も見えなくなってきた。別パーティーの三人と合流して昼食。昼食と言っても、紅茶とチョコレートとミルクの軽食。チングルマとモウセンゴケがうるさいほどに目に入ってくる。

一時間の休憩でリフレッシュして、長い尾根の下りに入る。下るにつれてどんどんガスの中に入り視界が悪くなってくる。第一の水場で幕営しているパーティから紅茶をごちそうになり、再び55分の休憩。

途中で鷹ノ巣岩を撮影し、台倉山(1695.3m)に15時15分到着。稜線取り付け点の林道に17時10分、そして鷹ノ巣の清四郎小屋に17時40分帰着。

朝3時55分に歩き始めて、長い長い一日が終わった。

小屋のおばさんが「みつだよ、のみな」と言って、今取れたばかりのハチミツで作った蜂蜜水をごちそうしてくれた。体から疲労感が音を立てるように消えて行くのがわかった。

長く抱えていた夢が叶ってほっと安心した夜は、空も息抜きしたようで雨。



## 踏み跡 <My Mountains>

静かな山奥の山小屋で、心地よい疲労感と満足感に浸って熟睡。

### 昭和53年9月11日 <清四郎小屋→沼山峠(尾瀬沼散策)→桧枝岐→湯の花温泉>

二泊した清四郎小屋を8時に出発。霧雨の御池で、空模様を見ながら今日の作戦の再検討。計画では桧枝岐へ下って会津駒ヶ岳をピストンすることになっていたが、雨の中を登るのはつまらないのでまずは沼山峠から尾瀬の散策をしてみることにした。

沼山峠9時30分。駐車場に車を止めて身支度を整え9時50分出発。

長蔵小屋10時30分。水が冷たくて美味しい。周囲の景色を楽しみながら30分の休憩をとっている最中に突然大変なことを思い出した。車のフォグランプを点けたままで歩いてきてしまった。沼山峠でバッテリーが上がってしまったら・・・とんでもないことになってしまう。尾瀬沼の景色を楽しむのは止めて急いで戻ることにした。

沼山峠11時50分帰着。フォグランプを消して、エンジンをかけてみる。

OK、よかった！ほっと一安心をおかず昼食。

沼山峠発12時45分。桧枝岐まで来たら、霧雨はもう雨に変わっているので、会津駒は最終的に諦め。

今夜の宿の湯の花温泉へ行く途中で田代山登山口の偵察。登山口の茶店の脇に「頂上まで1.00~1.15」と書いてあった。天気さえ良ければ頂上を踏むのは難しくないということが分かり湯の花温泉へ戻ろうとしたら、先程通った道が落石でふさがってしまい、通れない。(上の写真)

田代山から下ってきた人二人の力を借りて、雨の中で落石除去作業。何とか通過できるようにして発車。

湯の花温泉着16時20分。清滝という宿に泊まる。宿のすぐ裏にある湯元の温度は70度と書いてある。

憧れの山の後は憧れの温泉に一泊という贅沢な旅。



### 昭和53年9月12日 <湯の花温泉→会津滝の原→帰京>

帰京するには充分すぎる時間があるし、晴れ間も見えるので、田代山ピストンに挑むことにし、6時出発。

早朝の田代山スーパー林道を登山口まで15Kmの道程を車で登って行く。登って行くに従って雨が本格的な降りになってきて、登山口に着くころにはとても登山という感じではないような降りになってきたので、(中央の写真)登頂を断念して湯の花温泉にUターン。しばし休憩の後途につくことにし、9時出発。松戸が原あたりの田圃は黄金色に色づき、遠くに見える茅葺き屋根とガスに煙る山並みと相まって、「これが日本の秋だ！」と言いたくなるような景観。

会津滝の原駅で小休止し、写真撮影。会津若松から会津田島を通ってくる会津線が国境の山に突き当たって終点となる無人駅。どん詰まりの駅の線路の先には蒸気機関車が方向転換するターンテーブルと給水塔があり、いかにも旅路の果てらしい空気が漂っている。(下の写真)

山王峠を越えて栃木県に入るとガスもいくらか上になり、国境の稜線も見えるようになってきた。五十里湖は濁水状態で、湖底の起伏があらわになっており惨めな光景になってしまっている。

往路同様に今市から日光宇都宮道路に入り、佐野サービスエリアで眠気覚ましのコーヒータイムをとり、15時45分に自宅に帰着。車を使った長い山旅は初めての体験だったが、走行距離766.8Km無事走り抜けることができた。



田代山スーパー林道



以上